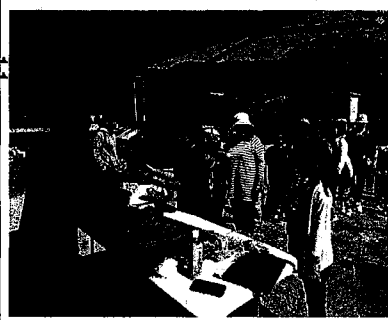


16	WWFしらほサンゴ村	クイズラリー in しらほサンゴ村	2月24日(土)～3月11日(日)
17	沖縄県	さんごの海フェスタ in 久米島	2月25日(日)
18*	一般社団法人日本サンゴ礁学会 若手の会	「沖縄のサンゴ礁研究最前線～君の褐虫藻を食べたい!～」	3月10日(土)～3月11日(日)
19	環境省石垣自然保護官事務所	パネル展示「日本最大のサンゴ礁“石西礁湖”を知ろう」	2月24日(土)～3月11日(日)
20*	NPO 日本安全潜水教育協会	セミナー サンゴ礁の今、そして未来 ～サンゴ礁のために私たちダイバーができること～	3月7日(水)
21*	国連生物多様性の10年市民ネットワーク	ワークショップ「ユースで変えよう!地球温暖化～日々の暮らしから世界まで～」	2月24日(土)
22*	特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金、崎枝公民館、石垣島を元気にするプロジェクト	畑と海をつなぐサンゴのまつり2018	3月4日(日)
23*	パスタカフェのりーちえ	ビーチクリーン読谷	3月5日(月)
24*	隠れ家カフェ清ちゃん	ビーチクリーン	3月4日(日)
25*	じゅごんの里	大浦湾でグラスボートからのアオサンゴ見学 瀬嵩浜と貝とことばのミュージアム見学 & サンゴの学習会	3月3日(土)
26	株式会社キーブブルー	グラスボートで行くわくわくお魚&サンゴ礁見学	3月1日(木)～3月18日(日)

<各イベントの実施報告>

1. サンゴの海を取り戻そう！ビーチクリーンと海人鍋とネイチャーゲーム

実施主体名	NEGO ツーリズム
開催日時	3月4日(日)
実施内容	ビーチクリーンと海人鍋
実施状況	65人 親子 参加者が楽しんでました。 晴れ
実施しての 所感	サンゴ礁ウィーク2回目の参加となります。 集客に苦勞しています。
メディアへ の掲載	なし

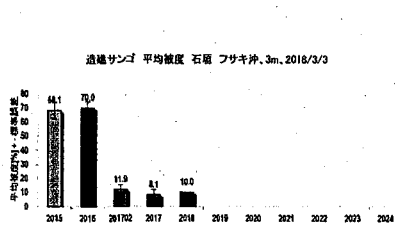


2.

3. リーフチェック石垣島フサキ沖

実施主体名	石垣島でいだダイビングサービス・ブルミンゴ・コーラル・ネットワーク
開催日時	2018年3月3日(土) 18:00~20:00(事前勉強会) 4日(日) 9:00~14:00(リーフチェック) 19:00~21:00(結果報告会)
実施内容	石垣島フサキ沖で、ボランティアダイバー・地元住民・科学者によるサンゴ礁の健康診断「リーフチェック」を開催した。 調査前日に2時間の勉強会を行い、サンゴ礁の基礎知識やリーフチェック調査法について学んでいただいた。 当日は2本のスキューバダイビングにより水深3mおよび8mのサンゴ礁の健康状態を把握した。
実施状況	ボランティア8名(地元2名/遠方6名)/スタッフ3名/科学者1名の計12名が参加した。年齢層は20代5名/40代1名/50代3名/60代3名だった。 当日は雨模様の天気予報だったが、実際には時々晴れ間が覗き、風や波もあまりなく、調査しやすい天候であった。 調査から、サンゴの平均被度について2016年の大規模白化からの回復は認められないという結果となった。
実施しての所感	今回のリーフチェックは地元の方、そして若者に多く参加いただくことができた。研修の一環で参加した大学生は、スキューバダイビングのCカードを持っていないため、スノーケリングでの調査見学と船上での手伝いとなったが、報告書から活動の意義について十分理解したことが受け取れた。 調査地はサンゴの平均被度が2015年は70%あった場所である。今回の調査では回復が認められなかったが、継続して回復状況を確認していきたい。
メディアへの掲載	日本サンゴ礁学会ニュースレターに掲載予定

底質_平均被度_石垣_フサキ沖_3m_2018/3/3



連続サンゴ_平均被度_石垣_フサキ沖_3m_2018/3/3





4. 海 LOVE in 宮古島 2018

実施主体名	海 LOVE in 宮古島 2018 実行委員会
開催日時	2018年3月4日(日)
実施内容	午前中2時間ほどかけて海岸清掃をし、屋からは隣の芝生広場にフードコーナーを設けて、飲食店がランチ販売をしたり、地域の人々がエイサー、フラダンス、ライブなどを披露。
実施状況	天気は晴れで暑かった。参加者は約400名。多くは地元の人で、親子連れ、地元自治会関係者、行政関係者、海上保安部など様々な人たちがいた。 みんな暑中ががんばって45リットルのボランティアゴミ袋905袋相当分のゴミを回収した。総重量は4トン以上。 午後はのんびりしたり、ライブを楽しんでいた。
実施しての所感	海 LOVE in 宮古島は今回が3回めで、サンゴ礁ウィークのイベントとしては2回めだが、前回より参加者が倍増した。SNSや、友達から誘われて、という方が多かったよう。後半のイベントが楽しみで来た人も多かったが、普段海へあまり行かない人や、海岸清掃活動を知らない人が、環境を意識するきっかけづくりとしてはよいと思っている。
メディアへの掲載	宮古毎日新聞: 3月5日 宮古新報: 3月5日 NHK: 3月4日 宮古テレビ: 3月5日



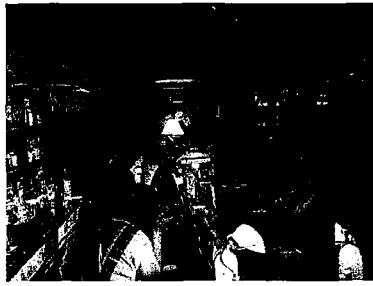
5. ケラマ諸島有人島4島一斉ビーチクリーン活動

実施主体名	一般社団法人チームけらま
開催日時	2018年3月3日(土)~3月5日(月)
実施内容	3/3 前夜祭：渡嘉敷島（渡嘉敷村公民館にて） エイサー、ハワイアンフラ、歌、まぐる解体、ゲームなど・・・ 3/4 ビーチクリーン活動(渡嘉敷島・座間味島・阿嘉島・慶留間島) 環境省の座学・写真撮影・表彰式・グラスボート体験ツアー 3/5 後夜祭：阿嘉島（阿嘉離島振興総合センターにて） 鯨太鼓、ハワイアンフラ、ゲーム、エイサーなど・・・
実施成果	当日は霧の影響により座間味行き高速船が欠航。その為、当日参加者は急遽、渡嘉敷行きへ変更。現地の天気は快晴で、暑い日差しの中での活動となりました。 ※ビーチクリーン活動参加人数 渡嘉敷島136名 座間味島51名 阿嘉島47名 慶留間島30名 参加者は旅行会社申込みのツアー団体や、企業団体、ファミリー、個人参加、外国人など（座間味、阿嘉、慶留間は島民中心でした） 前夜祭のイベントも雨の影響で室内へ変更の為、送迎バスを出すなどの、対応策は取りましたが例年より参加者は減っていました。 ビーチクリーンに関しては今年初の取り組みとして、参加証明書をプレゼントしました。
実施しての所感	国立公園指定から4年目になりますが、島民の方は勿論の事、県内外からの参加者も徐々に増え、皆でケラマ諸島を盛り上げていこう、美しい海と自然を守っていこうとの思いが集結していました。ゴミを拾いながら、仲間や家族と楽しく過ごす時間もケラマの自然に癒されながら体感できる素敵な1日でした。今後もケラマ諸島の観光振興、環境保全活動に繋るよう継続して活動に取り組みたいと思います。
メディアへの掲載	ビーチクリーン活動記者発表 2月23日 16:00 ~ 県庁記者会見室 沖縄タイムス、2月27日掲載 琉球新報 2月26日掲載 QAB Qプラス 2月25日 11:57 放送 RBC ザ・ニュース 2月23日 放送
支援金の用途	リーフレット、ポスター印刷代、横断幕、参加証明書用紙代など
	 

6.

7. Coral Night at Kumoji

実施主体名	Bar Sherlock Holmes
開催日時	2018年3月3日(土)、4日(日)、5日(月)
実施内容	先生方による珊瑚についての話と珊瑚にまつわるカクテルの提供。
実施状況	3日間のトータル人数53名、シニアの方から若い方まで幅広くお越しいただきました。 先生方のトークの間は、映像を見ながら話を集中して聞いていましたが、ユーモア交えた話の中で、時折、笑いが起きるシーンなどもあり、皆さん、楽しまれていたかと思われます。
実施しての所感	飲食店の初参加と言うこともあり、お客様がいらっしゃるか不安でしたが、初日&二日目などは席がうまり入れないお客様がいらっしゃるなど、ご迷惑を掛けましたが思ったよりも、珊瑚への関心の深さが実感できました。また機会あれば今回の反省を生かした。企画にしたいと思います。
メディアへの掲載	琉球放送、(南の島のミスワリン)の取材を受け、今月末31日(土曜)午後3:54放映。



8. サンゴ礁再生プログラム

実施主体名	日本ハム株式会社
開催日時	2018年2月25日(日) 9時30分~14時00分
実施内容	実施場所:さんご畑の陸上施設内 実施内容: 体験プログラム(サンゴの苗の植え付け作業、魚の餌付け) 見学プログラム(金城浩二氏の講義、サンゴの飼育槽の見学)
実施状況	・金城浩二氏をはじめ(有)海の種スタッフの皆様による講義や説明により、サンゴ礁とサンゴのちがいや自分たちの生活との役割・必要性を知ることができ環境意識を養うことができた(参加者感想より判断)。 ・実際にサンゴの株分け作業と苗床作りを行うことでサンゴへの愛着や興味を持ってもらえる体験を実施した。 なお、午後からのクリーンピック(海岸清掃)は降雨の為、金城浩二氏の判断により途中で中止した。
実施しての所感	・沖縄県に在住している参加者の中には、日常的に見ている青い海の中で起きていることに気づいていない方も多くいた。しかし今回のプログラムの中で、現在起きているサンゴの減少によって、自然生態系が乱れ、今のままだと将来的に水産資源が採れなくなることも理解していただくことで、生活の中で環境への配慮を心掛けて貰えるようになったと確信できた。
メディアへの掲載	・沖縄タイムス:2月27日 ・畜産日報:3月7日 ・食肉速報:3月8日



9. サンゴの日は博物館へサンサン GOGO!

実施主体名	沖縄県立博物館・美術館
開催日時	2018年3月4日(日)
実施内容	①サンゴストラップづくり(定員:先着100名) ②サンゴ風鈴づくり(定員:10名×4回) ③サンゴを使ったジェルキャンドルづくり(定員:10名×4回) ④サイエンスカフェ「サンゴ礁と気候変動」(定員:30名)
実施状況	①46人 ②151人 ③40人 ④17人 上記①から③は午前の初めの受付ですぐに満席になる盛況だった。小さな子供から大人まで多くのお客様が参加したが、特に①②③に関しては小学生の参加が多かった。④に関しては、この日のために県外から参加した来場者もいた。本物のサンゴを活用し身近にありながらよく知らなかったサンゴについて考える一日となった。参加者からは、またこのイベントを実施してほしいという声もあった。
実施しての所感	今回の参加者は、県内(特に近隣)の小学生が多く、地元のことを知るいい機会であったと感じる。また、本物のサンゴをじっくり見てさわることが日頃ないので、サンゴのカタチや模様の違いに興味を持つ子供が多く、実施してよかったと思う。 内容や広報にもよるが、年々「サンゴのイベント」という感じが定着している気がする。 いろいろなアクティビティをすべて申し込む人とすべてできない人が出たので、申込の方法を考えなければならないと思った。
メディアへの掲載	沖縄タイムスが取材に来ていましたが、掲載されたかどうかはわかりません。

51



10. サンゴ礁ウィーク マングローブ観察会

実施主体名	特定非営利活動法人 宮古島海の環境ネットワーク
開催日時	2018年3月11日(日)
実施内容	マングローブの木道を利用して、前半は、植物や生きもの観察をして講師が解説し、後半は参加者自らが生きものやマングローブの根や胎生種子を見つけるようなゲームを取り入れた。
実施状況	参加者は、地元の小学生低学年を中心とした親子13名。天候は曇り時々晴れ。 気温が低く、カニは少なかったが、野鳥やマングローブの胎生種子などをよく観察することができ、みんな元気よく、ゲームは盛り上がった。
実施しての所感	マングローブをじっくり観察し、生きものやその巣を見たり、絵を見せたりすることで、その生態系を学ぶことができたと思う。ゲームを取り入れたため、ゴールをするために大人も子どもも真剣に動植物を探し、周囲の環境がなぜマングローブにとって必要なのかも知ることができた。
メディアへの掲載	特になし



11. 美ら島・美ら海子ども工作室「サンゴの型取り染めでオリジナルTシャツを作る」

実施主体名	一般財団法人 沖縄美ら島財団
開催日時	2018年3月10日(土)
実施内容	サンゴの型どり染め 場所：美ら島自然学校 時間：13:00 - 15:00 内容：石サンゴ類についての説明、型どり染めの見本実演、参加者に体験実施
実施状況	トラブル等もなく実施。 参加者：22名(親子推奨)
実施しての所感	興味関心を持つ受講者が多く、好評だった。
メディアへの掲載	特になし



※報告書は写真のスペースを含めて1ページで収まるようにご記入をお願い致します。

12. サンゴ礁自然誌講座

実施主体名	一般財団法人 沖縄美ら島財団
開催日時	2018年3月4日(日)
実施内容	サンゴ礁の磯観察
実施状況	当日は濃霧のため開催が心配されたが、実施時刻の13時には濃霧もおさまり安全にイベントが開催できた。 参加者：11名(親子推奨)
実施しての所感	
メディアへの掲載	特になし



イベント名：海の観察会

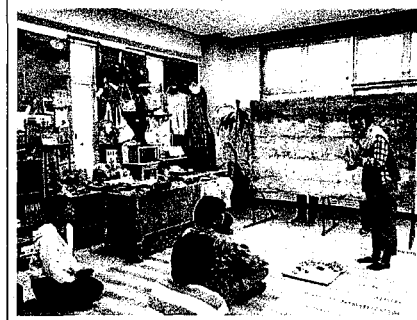
実施主体名	NPO 法人 コーラル沖縄
開催日時	2018年3月4日(日) 13:00 ~ 16:00
実施内容	※実際に実施した内容を簡単にご記入ください。 実施日の干潮時間に合わせトロピカルビーチのイノー観察会を行った。 当日は埋め立て予定だったトロピカルビーチの説明や、注意事項等のインフォメーション後イノーの観察会を行った。 観察会終了後用意したアーサ汁とおにぎりを食べながら参加者の感想を聞いた。
実施状況	※参加者数、参加者層(親子、シニア、若者、観光客、地元民等)、参加者の様子・反応、当日の天候(野外イベントのみ)などを簡単に記述ください。 参加者 15名(親子を中心に地元民が多かったが、仙台からも親子1組参加) 当日の天候は良かったので参加申し込みしていた全員が参加し、参加者からは「身近な自然を改めて知ることが出来てよかった」と異語同音の感想が寄せられた。用意したアーサ汁も大変好評だった。
実施しての所感 17	野外プログラムは天候の関係もあり数年前より、サンゴの日のイベントは全天候で出来るサンゴの勉強会とサンゴの苗床作り行っていた。 今年度は代替プランを用意して野外での観察会を行ったが、天候にも恵まれ参加者も自然に触れることのできるイベントとなったので、来年度以降も海の観察会を続けたいと考えている。
メディアへの掲載	※イベント実施後に取材等で新聞・テレビ・ラジオ・雑誌等のメディアに掲載された場合はメディア名と掲載日をご記入ください。 例：沖縄タイムス、3月12日 無し



※報告書は写真のスペースを含めて1ページで収まるようにご記入をお願い致します。

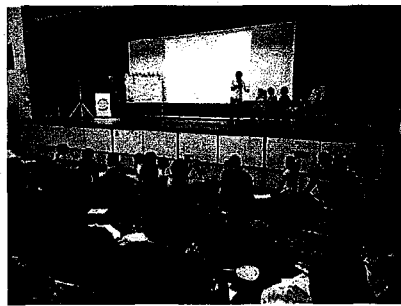
15. あーまんシアターとサンゴ礁さんぽ

実施主体名	あーまんシアター
開催日時	2018年3月3日(土)
実施内容	浦添市リサイクルプラザを会場に、手作りのぬいぐるみを使って海の自然を学ぶ「あーまんシアター」を上演。その後は野外観察に出る予定でしたが、天候が荒れていたため、室内で参加者とスタッフを交えてのサンゴすごろくを体験しました。
実施成果	当日は大雨警報が出る悪天候となり、親子の参加予定者が軒並みキャンセルとなりました。当初から雨天時は野外観察を室内レクリエーションに切り替える予定であったため、中止にはしませんでした。結局参加者は大人3名、子ども1名という少人数になりました。ただし、参加していただいた方からは、海の話が面白かった、サンゴののことがよく分かったという感想をいただきました。
実施しての所感	振替日程が取れず悪天候でも実施しましたが、やはり参加者が非常に少なくなるため、雨天時の対応を考え直す必要を感じました。
メディアへの掲載	特になし
支援金の用途	保険料(傷害、賠償)、スタッフ(5名)の交通費



17. さんごの海フェスタ in 久米島

実施主体名	沖縄県
開催日時	2018年2月25日
実施内容	「沖縄県サンゴ礁保全再生地域モデル事業」地域イベントとして、モデル事業について（特に久米島がモデル地域になったことについて）地域にお伝えするとともに、ステージ、ワークショップ、展示などで楽しみながらサンゴとサンゴ礁保全を感じてもらおう。
実施状況	参加者219名、参加者層は家族連れを中心に子どもから60歳代以上まで。参加者はきいやま商店ライブやワークショップ、車エビとモズクの試食会などを楽しみつつ、和気藹々とした雰囲気です。サンゴ礁に親しむ機会となった。各種活動紹介やさんご教室などで、さんごについて、サンゴ礁保全についても知ってもらうことができた。
実施しての所感	久米島で事前申し込みをしてくれる人は少ないと聞いていたが、200名近い方に申し込みをいただき、関心の高さを感じた。久米島の方々の温かいご協力をいただき、当初の想定以上のイベントを開催することができた。今回の盛り上がりは久米島のサンゴ礁保全にうまく繋げていきたい。
メディアへの掲載	: 沖縄タイムス、3月12日



18. 沖縄のサンゴ礁研究最前線～君の褐虫藻を食べたい！～

実施主体名	一般社団法人サンゴ礁学会若手の会
開催日時	2018年3月10日（土）・11日（日）
実施内容	沖縄県立博物館子どもアトリエにて、岩石や生き物などの実物とともに解説パネルを用意して展示を行いました。コンテンツの内容は以下の通りです。①沖縄島のサンゴ礁の成り立ち（岩石）、②サンゴ礁をつくる生き物（サンゴ、有孔虫）・③かじる生き物（魚、ウニ）・④くらす生き物（ヒトデ、ナマコ他）、⑤サンゴ礁の現状（海岸ゴミ）。
実施成果	2日間で69名の来場客があり、内訳は親子連れと高齢者が7割、高校生と大学生が3割程度でした。来場客からは、サンゴが動物であることを初めて知った、沖縄には昔からサンゴ礁があると思っていた、非常に勉強になった、などの感想を頂き、また、実施側では初参加の琉大学部生たちから、今後の研究活動をもっと頑張ろう、これからももっと多くの人にサンゴ礁を伝えよう、などといった声がありました。
実施しての所感	通算5回目の参加でしたが、来場客の滞在時間がおおよそ1時間というのは初めてで、コンテンツの充実や中心メンバーである大学院生の熟練度が向上したことが考えられました。次回からはメディアを通じた事前の告知（新聞の読者投稿記事など）を行おうと思いますが、可能であれば事務局を通じてサンゴ礁ウィークのイベント告知欄を地方紙各紙でご手配頂けるとありがたいです。
メディアへの掲載	RBC琉球放送「南の島のミスワリン」 *2018年3月31日放送予定
支援金の用途	展示関連費用（両面テープ、ラミネートフィルム、掲示物印刷代など） コンテンツ制作費用（石材、魚、白砂、スタンプ台など） チラシ印刷費用（フライヤーA5 200枚、チラシA4 100枚）



19. パネル展示「日本最大のサンゴ礁「石西礁湖」を知ろう」

実施主体名	環境省石垣自然保護官事務所
開催日時	2018年2月24日～3月11日
実施内容	日本最大のサンゴ礁である「石西礁湖」には約360種の多様な造礁サンゴが息しており、私たち人間に恵みをもたらす重要な役割を果たしている。 近年白化現象やオニヒトデの大発生等により、サンゴの被度は減少傾向にあるため、サンゴの生態や攪乱要因等のサンゴに係わる展示を行い、八重山島民や観光客の自然環境保全への意識向上を目的としたパネル展示を開催したものの。
実施状況	観光客や地元民等、石垣港離島ターミナルの利用者に広く啓発を行った。 パネル横にアンケートBOXを設置したところ、アンケート回答者は51名、うち観光客は53%、八重山島民(移住者含む)は47%と大差はあまりなかった。 回答者年代は10～20代が29%と最も多く、回答者性別については男性が59%であった。 2016年のサンゴの大規模白化現象については、情報に個人差はあるが、79%以上の人が、聞いたことがある、知っていると回答していた。
実施しての所感	2016年のサンゴの大規模白化について、かなりの割合の人が知っており、関心を示しているようであった。今年国際サンゴ礁年の年であり、今後もひとりひとりの意識やサンゴに関する興味をさらに向上していきたい。
メディアへの掲載	平成30年2月25日 八重山毎日新聞掲載



20. サンゴ礁の今、そして未来 ～サンゴ礁のために私たちダイバーができること～

実施主体名	NPO・日本安全潜水教育協会
開催日時	2018年3月7日
実施内容	コーラル・ネットワーク 事務局長 宮本育昌氏を講師に、サンゴ礁の基礎、現状、そして将来予測について紹介すると共に、いつまでもサンゴ礁を楽しむためにダイバーができることについてご提案するセミナーを開催した。
実施状況	参加人数35名、ほとんどがダイバー、セミナー終了後30分ほど時間を取って質疑応答を行ったが、温暖化についてや保全について積極的な質問があり、2時間の設定では時間が足りないほどであった。
実施しての所感	サンゴの白化についての認識はダイバーなので一般よりも知識があるようだが、実感として問題意識がないのか？課題が大きすぎるのか？事前告知に対する反応の無さが気になった。
メディアへの掲載	雑誌ダイバー 報告が次号でなされる予定です。



21. ワークショップ

「ユースで変えよう！地球温暖化 ～日々の暮らしから世界まで～」

実施主体名	国連生物多様性の10年市民ネットワーク
開催日時	2018年2月24日(土) 13:00~16:00
実施内容	<p>最初に小学校5/6年生・大学1年生にサンゴ礁保全に資する気候変動等の地球環境問題への取り組みを発表いただいた。</p> <p>次にアーティストにタラ号でのサンゴ礁研究航海での様子を紹介いただいた。また、それを踏まえて地球環境と自分のつながりを考えるワークショップを開催いただいた。</p> <p>最後に研究者からサンゴ礁の基礎知識、およびサンゴ礁保全と地球温暖化対策のつながりを解説いただいた。</p>
実施状況	<p>小学生13名、大学生3名、保護者3名、先生1名、スタッフ2名、講師2名の計24名が参加した。</p> <p>小学6年生が発表した2年連続して取り組んでいる自作の小水力発電機が高い関心を得ていた。また、大学生や講師の発表について小学生が熱心にメモしている様子が伺えた。ワークショップは大人も含めて全員が熱心に参加し、時間を超過する勢いだった。</p>
実施しての 所感	<p>参加者の反応も良く、プログラムの狙いについてはおおむね達成できたことから、企画としては成功だったと考えている。</p> <p>しかし、参加者が定員60名に対して大幅に少なかったことは大いに反省したい。これは、これまでに学生の発表を含めた企画をしたことが無く、学校スケジュールとの整合がうまく取れなかったことから、発表者・開催場所の調整に手間取り、広報期間が十分に取れなかったのが主因である。</p> <p>今後はこの教訓を活かし、企画立案・実施を進めたい。</p>
メディアへの 掲載	なし



22. 畑と海をつなぐサンゴのまつり2018

実施主体名	特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金、崎枝公民館、石垣島をもっと元気にするプロジェクト(三者共催)
開催日時	2018年3月4日(日) 10:00~17:00
実施内容	赤土流出の少ない農業の作業体験を通じ、畑と海がつながっていることを実感してもらうことを趣旨として、赤土流出の少ないサトウキビ株出しでの畑での補植作業、赤土流出を抑えるひまわりの種まき等を行った。また、まつり広場での展示、子どものためのぬりえと工作、ライブ、飲食・販売ブースにより、地域の環境について楽しみながら知る機会とした。
実施状況	<p>午前のサトウキビ補植体験、午後のひまわり種まき共、各50人程度の参加があり、まつり広場への来場者を含め、全体で150人程度の参加があった。晴れて暑いくらいの天気だった。</p> <p>昨年に続き、昨年に続き三者共催で実施し、環境省石垣自然保護官事務所の協力、石垣市赤土等流出防止営農対策地域協議会と沖縄県サンゴ礁保全推進協議会の後援も得られた。さらに、八重山農林高校グリーンライフ科の生徒も、補植体験のスタッフ、観葉植物等の販売に当たった。多くの関係者の協力で開催することができた。</p>
実施しての 所感	「畑と海をつなぐサンゴのまつり」は今回が3回目で、昨年に続き三者共催での実施となった。同日にビーチクリーン等のイベントがあり、石垣市長選の告示日でもあったため、参加者はやや少なめだったかもしれないが、予想外の好天に恵まれ、参加してくださった方には楽しんでいただけたと思う。
メディアへの 掲載	<p>八重山毎日 3月5日</p> <p>八重山日報 3月5日</p> <p>石垣ケーブルテレビ</p>

